岩手県奥州市江刺伊手地区の
住民主体の移動支援

伊手振興会／一般社団法人いであい

ひとつの
方法で何とかせず
重ね合わせて
空白をなくす

1．伊手の紹介

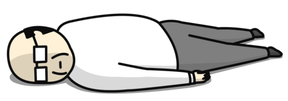
- 人口…1,200人、高齢化率…55%以上
- 5,000haの広大な面積の67%が山林で占められ、主産業は農業（米、和牛、りんごなど）
- 中学校は令和4年3月閉校、伊手小学校は令和5年3月閉校
- 市営バスが旧江刺市と伊手地区内を結んで走っていた（1日7往復）
- 旧江刺市市内のタクシー会社の営業所あり（車両1台）

北上高地の山すそに広がる中山間地域
かつては鉱山で栄えた…

2．そんな伊手を襲った２つの悲劇

悲劇１＞「2022年をもって、市営バスは地区センター止まりとする！」by市
悲劇２＞「2025年1月で伊手のタクシーやめます…」byタクシー会社

チーン…オワタ



旧江刺市街と伊手地区内を結ぶ市営バス

2025年1月で終了した地区内唯一のタクシー車両

3．住民主体の公共交通＆移動支援の経緯

- 2022年3月　伊手コミュニティ計画が完成（伊手振興会）
- **A　2022年10月　自家用有償運送「いで・ごー」運行開始**（市営バスはセンター止まり＆3往復に減便）　市の補助
- 2023年9月　農村RMO補助事業がスタート（3カ年）
- **B　2024年12月　認可不要送迎「おでかけサロン」運行開始（～3月）**　事業補助
- **C　2025年1月　認可不要送迎「通院支援」運行開始（～3月）**　事業補助
- 2025年1月　伊手地区内のタクシー廃業
- 2025年2月　一般社団法人いであい設立
- 2025年7月　総務省補助事業がスタート
- **D　2025年6月　自家用有償運送「いでらくかー」運行開始**　料金で運営（補助なし）　事業補助
- **E　2025年8月　認可不要送迎「復活！おでかけサロン」再開（～2月）**

「いで・ごー」の乗降場所。市営バスのバス停に新規乗降場所を追加。

4．運行の概要

項　目	A. 自家用有償運送「いで・ごー」	B. 認可不要送迎「おでかけサロン」	C. 認可不要送迎「通院支援」	D. 自家用有償運送「いでらくかー」	E. 認可不要送迎「復活！おでかけサロン」
運営主体	伊手振興会	農村農業活性化協議会（一社いであいの前身）	農村農業活性化協議会（一社いであいの前身）	伊手振興会	一社いであい
運行者（ドライバー）	登録ドライバー6名	協議会事務員	協議会事務員	登録ドライバー6名	りんご園送迎者
車両	登録ドライバーの自家用車	レンタカー（10人乗り）	レンタカー（10人乗り）	登録ドライバーの自家用車	りんご園所有車両（7人乗り）
運行日・便数	週3日（月・火・金）午前・午後3便	水・木の午後	月・火・金の午前	月～金、8時～19時	第1.3の火～金
予約先	地区センター（前日15時まで）	地区センター	地区センター	地区センター（前日15時まで）	地区センター（前日15時まで）
利用料金	1回　500円 ＊市営バスに乗り継げば無料	1日　100円 ＊片道でも往復でも	1日　100円 ＊片道でも往復でも	タクシー料金の半額で設定	1日　100円 ＊片道でも往復でも
登録者数 利用実績	登録者　76名 月平均　延べ　51　人	3か月　延べ15人	登録者　21名 3か月　延べ　38人	登録者　19名 7月　延べ　17人	開始から延べ　11人
ドライバー謝礼	1回　1389円	（事務員のため無し）	（事務員のため無し）	利用料金の9割 （1割は振興会に手数料）	1398円×3h

（運行の趣旨）
「いで・ごー」は、運行日や時間、行き先の制限があり、限界がある。
主な買い物先や通院は伊手地区外だが、市営バスに乗り継げない人もいる。

（利用者の声）
『タクシーが無くなり、困っていたので助かる』『待ち時間が無くて助かる』『乗り口や車内が広くて助かる』『利用料金が安すぎる』

（運行の趣旨）
タクシーがなくなったことで、「通院支援」利用者が激増したため、ニーズの多さが分かり、運行を決意。運転手にはタクシードライバーを行っていた方を起用。

（運行の趣旨）
農福連携に取り組むりんご農家の送迎車の協力をいただき、継続。

いで・ごーから市営バスに乗り継ぐ様子

雪の中、おでかけサロンで買い物に出かける利用者

5．これから

- 電話予約からオンライン予約へ移行検討
- 通院・買い物だけでなく、レジャーや交流支援へ拡張
- ボランティアドライバーの確保と負担軽減、補助金以外の財源の確保